

埼玉医科大学病院ニュース

第77号

—お薬特集—



ゆい

患者さんと医療者を結ぶ情報誌

CONTENTS

ページ 2

薬剤部紹介
ご挨拶 薬剤部長 眞壁秀樹

ページ 3

安全にお薬をお届けするために

ページ 5

職員紹介

ページ 6

将来の夢のために

ページ 7

薬に関する薬剤師のパートナー

ページ 8

アスリート通信
埼玉医科大学グループアスリートクラブ

ページ 10

基本理念
外来受診のご案内
新型コロナウイルス感染症に対する対応
編集後記
外来駐車場のご案内

合言葉は
あなたの幸せが
私たちの幸せです

Your
HAPPINESS
Is Our
HAPPINESS

薬剤部紹介

ご挨拶



部長

眞壁 秀樹

病院ニュースをご覧頂き誠に有り難うございます。部長の眞壁と申します。今回は薬剤師（薬剤部）の特集となっております。皆様は日頃薬剤師といえば、保険薬局やドラッグストアを思い浮かべる方が多いと思いますが、今回はあまり知られていない病院の中で働く薬剤師（薬剤部）をご紹介します。さて、当院薬剤部には総勢 69 名の薬剤師と調剤助手 9 名が在籍し、主な病院薬剤師のお仕事は、外来・入院患者さんへのお薬の提供はもちろん、今では各病棟に薬剤師を配置し、より患者さんの近くで持参された薬の確認、お薬の説明や管理、副作用モニタリング、お薬の情報提供などを行っています。さらに医療安全、感染対策、術前のお薬確認、治験薬管理など幅広く関与し患者さんと近いところで日々安全な薬物療法を提供できるようチーム医療の一員として働いております。今や医療においても IT 化から働き方改革、そして組織改革など医療 DX（Digital Transformation）化が叫ばれておりますが、世の中が変化していても我々薬剤師の使命である「安全な薬物療法の提供」に変わりはありません。

今後も時代の流れに対応しつつも、薬剤師としての使命を忘れずに周囲から求められそして信頼される病院薬剤師になれるよう「Your Happiness Is Our Happiness」を胸に頑張ってまいります。これからも薬剤師（薬剤部）を宜しくお願い致します。



業務紹介

安全にお薬を お届けするために

① 医薬品の購入と在庫管理

医薬品は医療に必須のものであり、必要な時に必要な医薬品が必要量、患者さんや医療従事者の手元に届かなければなりません。外来患者さんに処方される医薬品や入院患者さんに使用される医薬品など病院で使用する医薬品は、すべて薬剤部で購入管理しています。

医薬品の購入は、品目ごとに病院で決められた医薬品卸売業者から購入しており、購入した医薬品は、一旦、薬剤部の調剤室や注射室に在庫保管されます。医薬品にはそれぞれ保存条件（貯法）が定められています（室温保存は1～30℃、冷所保存品は2～8℃など保存温度が決められています。）ので、保管中は保存条件を逸脱しないようしっかり品質の管理に努めています。



【患者さんにお薬が交付されるまで】

薬剤部調剤室では、医師が発行した処方箋に基づき、入院患者さんの処方箋の調剤、処置・検査薬の調製、外来患者さんの院内処方箋の調剤、消耗品の交付等を行っています。

以下に、お薬が交付されるまでの流れを紹介いたします。

1) 処方監査および疑義照会

医師が発行した処方箋の内容について、投与量・投与方法・投与間隔・相互作用など確認（処方監査）し、疑問点がある場合は医師に確認（疑義照会）します。

2) お薬の調剤

処方箋に記載されている薬の取り揃え、水薬や散薬は量をはかって調剤を行います。調剤は処方箋の医薬品データと医薬品に印刷してあるバーコードとを照合する「調剤鑑査支援システム」を導入し、調剤ミスを防止しています。また患者さんの服薬状況に合わせて錠剤を服用時毎に一包化を行うこともあります。

3) 最終鑑査

調剤された薬剤を、調剤者とは別の薬剤師が再度確認（最終鑑査）します。

- ・正しい薬であること
- ・薬袋の記載事項が適切であること
- ・処方薬の数量、秤取量が正しいこと
- ・処方薬の品質が保たれていること など

4) お薬の交付

調剤された薬を患者さんに交付します。医薬品の交付に際して、患者さんが使用する医薬品の適切な情報を提供いたします。

【お願いと注意事項】

- ◆お薬の一包化（一回量包装調剤）、錠剤の粉砕、軟膏剤の混合等を必要とされる患者さんのお薬の調剤には時間がかかることがあります。待ち時間が長くなってしまうことを予めご了承下さい。
- ◆厚生労働省は医薬分業を推進しており、院外処方箋を推奨しています。当院でも原則「院外処方箋」でお願いしております。
- ◆院外処方箋の有効期限は「発行日を含めて4日間（日曜日や祝日を含む）」です。有効期限が過ぎると保険薬局では受付できなくなり、医療機関で再発行をしてもらうことになります。再発行は健康保険が適用されないため費用は全額自己負担となります。処方箋を受け取ったら、早めに保険薬局に持って行ってください。

病棟部門

全病棟に薬剤師を配置し医師・看護師・メディカルスタッフと共に安心して安全な薬物療法を提供できるように努めています。病棟での薬剤師の仕事について紹介します。

情報提供・医薬品の管理

医薬品情報室と連携を図りながら、最新の医薬品情報を医師、看護師、メディカルスタッフへの情報提供を行っています。また病棟において医薬品を適切に管理しています。



持参薬の鑑別、アレルギー・副作用歴の確認

入院された患者さんの入院前の使用薬剤、市販薬やサプリメントの摂取状況、アレルギー歴や副作用歴の確認を行い医師への報告を行っています。

また入院前使用薬から当院採用薬への切り替えについて代替薬の提案を行っています。



薬物治療の評価・処方提案

患者さんの訴え、検査値、カンファレンスで得られた情報等をもとに、治療効果や副作用を確認し、より最適な薬物療法が提供できるように処方内容の検討を行っています。

また既往歴や併用薬、体重、肝・腎機能、アドヒアランスを考慮した処方提案を行うことで薬物治療の個別最適化を図っています。



患者さんへの服薬指導

入院患者さんへ薬の効果、用法、用量、使用方法、注意事項について説明を行っています。

安心して薬物治療を継続していただけるような服薬指導を心がけています。

職員紹介

私の目標

臨床・教育・研究のできる
薬剤師を目指して



鈴木 貴大

2023年入職1年目

薬剤師を志したのは、医療従事者である両親の影響が大きく、幼少期に地域の人から医療に関する相談を受けている両親の姿を見て、多くの人を手助けできる医療従事者にあこがれを抱きました。そして、中学生の時に化学を学ぶ楽しさを感じ、医薬品の専門家である薬剤師という職業に興味を持つようになりました。その後、医療の道に進むことを決意させたのは、2011年3月11日に発生した東日本大震災です。震災当時、私は岩手県内陸部に在住しており、津波の直接的な被害はありませんでしたが、毎年部活動で使用していた野球場などは津波で流され、沿岸部では多くの死者を出しました。震災から数日後、被災者に対して何もできない自分に対する無力感でいっぱいになっていた時、避難所で傷病者の手当て、感染対策、被災者の心のケアに尽力する医療従事者をテレビニュースで目にし、その姿を見て「医学・薬学的な知識を身に着けることで人を助けられるようになりたい」と強く感じ、薬剤師として医療の道に進むことを決意しました。

私は大学院博士課程に在籍した4年間、薬局薬剤師として臨床業務を経験し、そして大学院では新規経皮

吸収型製剤開発という研究プロジェクトに携わることで、臨床・研究に関する見識を養うことができました。さらに、学部生への薬学的教育支援活動を通して、教育の重要性についても学び、その際に「巨人の肩の上に立つ」という言葉に出会いました。諸説ありますがシャルトルのベルナールが提唱した言葉であり、現代の解釈では「先人の積み重ねた発見に基づいて、新しい発見を行う事」とされています。この言葉は医療現場における教育活動や医療の発展に関しても重要な意味を持つと考えています。先人、つまり経験豊富な上級医療従事者、あるいは専門性を有する他職種の見識に基づいた教育により、下級医療従事者や実習生が成長して先人の肩の上に立つことで、さらに高い見識を身に着けた医療従事者を育成できる。そして、医療従事者全体の見識を高めることは、やがて医療の発展につながり、患者さんへの質と満足度の高い医療の提供が可能になると考えています。

私は病院薬剤師としてはまだ1年目であり、病院での臨床・教育・研究に関する見識は非常に乏しいですが、今後臨床業務だけでなく薬剤部の研究プロジェクト、勉強会、学会等にも積極的に参加していくことで臨床・教育・研究に関する見識を養いたいと考えています。そして、大学病院の使命である臨床・教育・研究という3本柱に薬剤師として携わり、それらの活動を通して学んだ見識を薬剤師や他職種、実習生に還元することで、より高い見識を身に着けた医療従事者を育成したいと考えています。そして、医療の発展に貢献していくことで、「当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。」という当院の基本理念を薬剤師として全うできるようにこれからも日々精進していきます。



薬学生実務実習

将来の夢のために

5月22日から8月4日に、薬学生10名が病院実習を行いました。当院では年3回に分けて、毎年30名を超える薬学生の病院実習を受け入れております。

薬学生の実務実習は、5年生の時期に薬局と病院でそれぞれ2.5ヶ月ずつ合計5ヶ月間にわたり現場での実習を行います。



病院実習では、薬学生たちにとって生きた臨床現場を学ぶ非常に重要な学習の一環であり、患者さんの治療に関わる医療チームの一員として薬剤師の役割を学び、体験できる貴重な機会です。



薬学生は大学で学んだ知識を生かし、実際の現場において薬の管理、調製、確認、投与、指導、モニタリングなど様々な業務を実体験しつつ知識の定着を図り、さらに実際に多くの患者さんと接し、医療スタッフとの多職種連携を学び、チームワークの必要性やコミュニケーション能力を向上させています。

埼玉医科大学病院では、病院実習を通じて、薬学生たちの成長と将来活躍できる薬剤師の育成、そして彼らの未来を応援しております。



調剤助手

薬に関する薬剤師 のパートナー

調剤助手とは、一般の方が薬剤業務の一部を補助する職種です。「調剤技師」や「調剤補助員」とも呼ばれます。

私たち調剤助手のお仕事は、あまり知られていないのが現状です。しかし年々薬剤師の業務が広がりを見せる中、薬剤業務の補助として多くの病院や保険薬局で少しずつ導入が進んでいます。

私たちは、厚生労働省の通知で「薬剤師以外のスタッフが実施しても差し支えない」とされている、お薬の取り揃えや散薬を小分けする機械の操作、少なくなった医薬品の棚補充、その他にも患者さんが家で使う医療用消耗品（ガーゼ、注射器、チューブなど）の管理から取り揃え、払い出しまで多くの業務を薬剤師の指導のもと補助しています。

私たちは、これからも力を合わせて薬剤部を支え、そして薬剤部の一員として患者さんのために頑張っていきます！



薬剤部で働く調剤助手の皆さん

アスリート通信

埼玉医科大学グループ
アスリートクラブ

東日本実業団陸上選手権
(5月20日～21日)

埼玉医科大学アスリートクラブ
(<http://www.smu-athlete.jp>)



2023年5月20～21日に東日本実業団陸上選手権がカンセキスタジアムとちぎ（栃木県）にて開催されました。埼玉医科大学グループからは25名が出場し、多くの競技で結果を残すことが出来ました。トラック競技では男子3000m障害で吉田選手（医務部）、中園選手（経理課）が残り2周から独走し1、2位でワンツーフィニッシュを果たしました。

女子はカドゴ選手が3000mで3位、1500mで6位入賞しました。

フィールド種目では保坂選手（大学事務部）がハンマー投げで3位、中嶋選手（大学事務部）がやり投げで5位入賞と好記録を収めました。



吉田選手と中園選手



カドゴ選手

選手のコメント

カドゴ選手（女子 3000 m・1500 m）

「応援ありがとうございました。3000 mは終盤にペースを落としてしまいました。次の試合に向けて集中していきます。」

吉田選手（3000 m障害）

「応援ありがとうございました。昨年に引き続き優勝することが出来ました。今後はニューイヤー駅伝の切符を獲得できるようにチームに貢献していきます。」

中園選手（3000 m障害）

「日頃よりご声援ありがとうございました。この結果に満足することなく駅伝で活躍できるよう、また仕事と競技の両立を図りながら精進して参ります。」

中嶋選手（やり投げ）

「応援ありがとうございました。全日本実業団では5位以上の結果が残せるよう頑張ります。」

保坂選手（ハンマー投げ）

「日頃より応援していただきありがとうございます。大会当日は多くの関係者の皆様にお越しいただき大変感謝しております。これを機に益々励んでまいります。」

駅伝部・フィールド部門両方とも、仕事と競技の両立を計りつつ、良き結果を出すことに向けて日々の練習を乗り越えていこうと思います。アスリートクラブへの応援をどうかよろしくお願い申し上げます。



中嶋選手



保坂選手

ワゴン販売サービスのお知らせ

10:00~12:00

※各病棟に到着しましたら、アナウンス致します。
※お支払いは現金のみとなります。

各病棟デイルーム
にて販売しております。

販売スケジュール	月	火	水	木	金	土
本館、西館、東館	●		●		●	
南館		●		●		●

5号館売店(株)ウエルフェア

年中
無休

平日・土曜 8:30-18:00
日曜・祝日 11:00-17:00
TEL049-276-1571 (内 2598)



—基本理念— 当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利

3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

外来受診のご案内

診察時間 月曜～土曜 9:00～17:00

受付時間 月曜～土曜 8:30～17:00 (初診で予約の無い方 8:30～11:00)

※紹介状をお持ちの方は、事前に予約センターで電話予約をしたうえでご来院ください。

予約センター 049-276-1179 (8:30～17:00 日曜祝日除く)

新型コロナウイルス感染症に対する対応

5月8日から新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、医療機関では高齢者など重症化リスクの高い人たちが集まるため、施設内において感染が広がらないよう対策を続けていくことが求められています。

来院される際には今まで通り**手指衛生の実施**、院内では常に**マスク着用**をお願い致します。

最新の情報を元に、より良い感染対策を考え、患者さんに安心できる医療を提供できるようにこれからも取り組んで参ります。

～編集後記～

埼玉医科大学病院ではホームページのリニューアル準備を進めており、8月の夏の暑い日差しの中、様々な場所で写真撮影を行いました。普段通る場所でもカメラのレンズを向けてよく見てみると、新しい発見がありますよね。こちらは緑と一緒に撮った毛呂山キャンパス正面からの写真です。夏の暑い日の良き景色となりました。



外来駐車場のご案内



←白い看板が目印です

埼玉医科大学病院ニュース 第77号

発行日 令和5年11月1日

発行責任者 病院長 篠塚 望

編集発行 埼玉医科大学病院 病院広報戦略室

TEL 049 (276) 1121 FAX 049 (294) 8222

www.saitama-med.ac.jp/hospital/index.html

